

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.105】H24(2012).8.22
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

今金っ子育成プロジェクト
「読書と作文のまち」ワーキングチーム
北海道教育大学札幌校「鹿内教授」研修会

今金町の子どもたちの健やかな成長とたくましく生き抜く力を養うため、これまで２年間にわたり体験活動や親学講座、そして、先進地視察研修などを経て、北海道教育大学の鹿内信善教授の指導助言等も頂き、プロジェクト会議、保護者懇談を経て、昨年度末「読書と作文のまち」をテーマとした基本路線が確認されました。

読書の推進については、図書振興会議が所管する「子ども読書活動推進計画」とも連動することから７月５日、読書と作文のまちワーキングチームと図書振興会会議委員との合同会議を開催し、鹿内教授が研修実践しておられる「看図作文（中国生まれの作文指導法を鹿内先生がオリジナルを加え、新たな視点での指導方法)」をテーマに本町の学校・家庭・地域それぞれの場面での可能性を探っていくことが確認され、ワーキングチームとして「看図作文」について鹿内先生による研修を実施することとなりました。

７月１８日（水）ワーキングチーム一行１７名は、教育大学札幌校を訪問、学食での昼食後、鹿内先生のご配慮もいただき、大学図書館の見学もさせていただきました。



鹿内先生による研修会は、午後１時３０分から午後４時１５分まで行われ、前段、鹿内先生が数年前から学生たちや先生自身が今金町を訪れ、指導にあたっていただいた経過をパワーポイントでまとめていただいたり、５グループに分かれての看図作文のワークショップやこれまでの実践の紹介、看図作文を使って絵本をつくる指導の中作られた子どもたちのオリジナル絵本などの紹介（看図作文は、ビジョンをつくる力を育てる)、また、研修参加者の小川ひとみさんによる読み聞かせを交えての研修が進められ、あっという間の時間の経過とともに子どもたちの感性を揺さぶる看図作文の世界に参加者全員が堪能する時間となりました。また、今金町が次のステージに進むためのたくさんの方向性や助言をいただきました。



そのポイントの幾つかを紹介すると、①心ひかれるネーミングの大切さ、②心を豊かにする解説の大切さ、③アウトサイダーとの連携、④看図作文を使っての絵本づくり、⑤町づくりはできるだけたくさんの人を取り込むことや不読者の取り込み、⑥学びロードの設置、⑦大人を対象とした読書と作文のサークルをつくる、⑧今金が推進している食育へつなげる　など



これらの、ポイントは第２回ワーキング会議において検討され、具体的な推進計画づくりへと展開していきたいと考えています。鹿内先生の事前準備やご指導に心より感謝申し上げます。

中体連全道大会出場選手激励・

平成２４年度北海道中学校全道大会（７／２７～全道各地で開催）に出場する選手への教育長による激励が７月２５日今金中学校で実施されました。

今年は、陸上（旭川市）男子１名、柔道（深川市）男子１名、女子バトミントン団体・個人（森町）１０名、女子バスケット（苫小牧市）１０名、の計４種目２２名の選手と引率教員８名で、母校の名誉とふるさと今金への思いを胸にそれぞれの競技に挑みます。特に、女子バスケットは、今金中学校の歴史で初めての全道大会出場となります。勝敗だけではなく、大会を通じて、正々堂々と挑戦する姿勢や礼儀、そして信頼と感謝の気持ちを忘れずに精一杯頑張ってもらいたいと思います。子どもたちの健闘を心から祈ります。



委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、田中教育委員です。

「団体活動の思い出と思い　～その２～　今金町青年会議」

８月 13 日「今金町成人祭」が行われました。

成人祭では毎年今金町に縁、関わりのある方のお話を聞く「記念講演」があります。今年は今金町青年会議が 2 月から取り組んで来た「東北震災地の研修と交流の経過」について、前向き積極的な報告がありました。また、８月 19 日「今金　いいとこまつり」が開催されましたが、青年会議のメンバーを含め若い世代の方が、良く動き熱い汗を流していました。40 年に近いさまざまなものを引き継ぎ、頑張り、さまざまな活動を進めています。OB の一人として大変頼もしく、うれしく感じました。





「青年会議」は、昭和４９年、当時の堂垣内知事の地域振興施策として、道内各支庁に１つの設立が推進されました。今金町では当時の農政課長中井誠司さん（のちの教育長、助役）が檜山としていち早く手を挙げ、発足しました。すんなりと発足したと言う事ではありません。当時、町内では農業の青年と市街地の青年が今の様に融和していた訳ではなく、それぞれ対峙しながらそれぞれの団体の活動を活発に展開していました。中井さんの強力な後押しと二大組織である農協青年部長　中野秀勝さん、商工会青年部長　佐藤正一さんとその世代の人たちの合意熱意で「今金町青年会議」設立と成りました。会員数約５００名、農協青年部、商工会青年部のほか青年団体協議会（地域青年団の連合体）、４Ｈクラブ、伸林クラブ（林業青年）、農協婦人部若妻会の６団体が加盟しました。私は、一会員として設立準備会から後に会長ほか役員として１２年間関わりを持つ事と成りました。事務局は、北海道農務部の施策でしたので設立時は農政課でしたが、数年後青年層の要望により教育委員会社会教育課と変わりました。

初期の頃の事業を挙げてみますと、順序不同ですが「青年模擬議会」「先進地視察研修」「郷土を築く青年大会」「産業まつり参加」「明日の今金を語る懇談会」等々。これらの種々の事業の中からあるいは、話題の中から青年会議が直接的に、あるいは間接的に実施された事として「祭りを盛り上げる会」として山車の運行～ドラえもん、アラレちゃん、パーマン、忍者ハットリくん と４年運行。会費運営による講演会開催の「今金地域大学」～研修先深川市青年大学に習い実施しましたが３年で休止、残念。(機会があれば別稿で)。「特産品開発小委員会」～一村一品の言葉がない時代より今金の特産品を見出そうと取り組んだのですが実現は困難でした。「姉妹町提携小委員会」他地域とひと、もの、情報等の交流を図ろうと取り組みました。具体的な姉妹町提携には至りませんでしたが、金原明善翁の関係、種子馬鈴薯の関係で浜松市として河端元町長に意見具申しました。一時期、金原小学校が浜松市和田小学校と作品交流しましたし、今金と浜松の農協が姉妹農協の提携をしました。

他にも種々ありましたが、それぞれの事業や活動で取り組んだ事、話された事、芽生えた事などがその後、あるいは現在の「まつりやイベント」「国内国際交流事業」などとして、僅かながらも気持ち、精神が通じているのかなと思っています。

また、現在、農業者も商工業者も勤めの方も、町内地域、職域を越えて融和してイベント等に取り組んでいるのは、青年会議の歴史の成果かなと思います。私自身は２０代から３０代前半まで関わりを持ち、多くの良き先輩、仲間に恵まれ、まちづくり、地域おこし、ひとづくりと熱く語り、多少実践してきた事が、大変良かったと思っております。現在の青年会議は農協青年部と商工会青年部、２団体、８０余名の会員との事です。ますます過疎化、高齢化が進行し困難な時代ですが、歴史を引継ぎ、頑張ってほしいと願っています。応援しています。ガンバレ、「今金町青年会議」。

